

# 上ノ国町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

上ノ国町は、人口約4,700人の第一次産業を基幹産業とする過疎地域である。路線バス（小砂子線）はJR江差線線区廃線に伴い運行された地域間幹線バス（江差木古内線）と一部運行区間が重複することなどから廃止されたが、商業施設及び教育施設は中心市街地に集中し、病院は隣町への通院等が余儀なくされていることから、未成年者及び高齢者等を中心に通院、買い物、通学など生活のために生活路線バスは必要不可欠なものであり、また本町と松前町の間で公共交通機関の空白地帯があり支障を来していることなどの解消も求められていた。

本事業により、新たな路線バス（小砂子線）を松前町から江差町までの区間で運行し、また江差木古内線と接続することにより、住民の生活交通手段を存続させていくことが今後も必要と考えている。

## 生活交通確保維持改善計画の目標

小砂子線を運行・維持することにより、町内海岸部集落の高齢者等の日常生活に必要な移動手段が確保される。また、幹線・支線のネットワークが連携することで、効率的な運行形態が実現でき、外出促進・地域活性化にも繋がる。

また、公共交通機関の交通空白地帯を解消することにより、利用者の増加に繋がる。

【目標】

・平均乗車密度	1.15人
・利用者数	1,950人（人口千人あたり）

## 令和3年度事業概要

○小砂子線 運行日数：364日 運行回数：1,574回  
江差ターミナル～小砂子～原口漁港前 3回/日  
江差ターミナル～小砂子 1.5回/日

## 地域公共交通の現況

○函館バス株式会社（2路線）  
・小砂子線（地域内フィーダー系統）  
・江差木古内線（広域生活交通路線）  
○スクールバス（3路線）

## 協議会開催状況

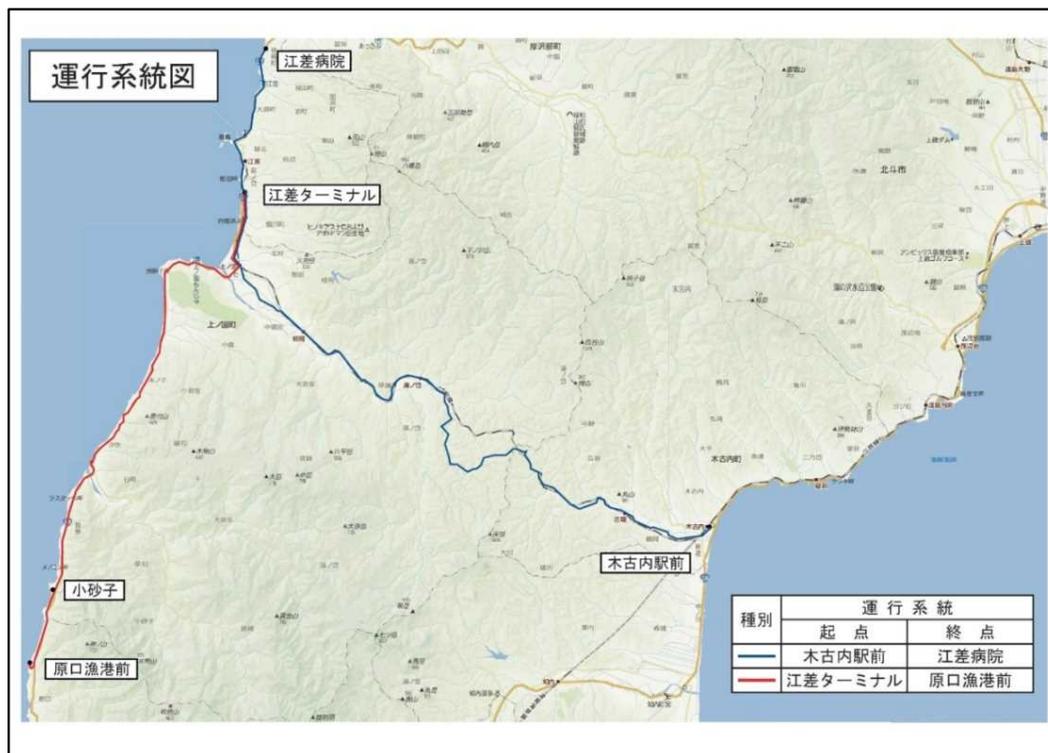
- 平成26年5月23日 第1回地域公共交通会議
  - ・上ノ国町地域公共交通会議設置要綱
  - ・平成27年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成27年6月23日 第2回地域公共交通会議
  - ・平成28年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成28年1月19日 第3回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成28年6月16日 第4回地域公共交通会議
  - ・生活路線バス「小砂子線」に係る運行区間の見直し
  - ・平成29年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成29年1月20日 第5回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成29年7月27日 第6回地域公共交通会議
  - ・平成30年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成30年1月18日 第7回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 平成30年6月21日 第8回地域公共交通会議
  - ・平成31年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 平成31年1月16日 第9回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 令和元年6月24日 第10回地域公共交通会議
  - ・令和2年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 令和2年1月22日 第11回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 令和2年7月22日 第12回地域公共交通会議
  - ・令和3年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 令和3年1月29日 第13回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
- 令和3年6月16日 第14回地域公共交通会議
  - ・令和4年度上ノ国町地域内フィーダー系統確保維持計画
- 令和4年1月13日 第15回地域公共交通会議
  - ・地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価

## 令和3年度事業の実施状況

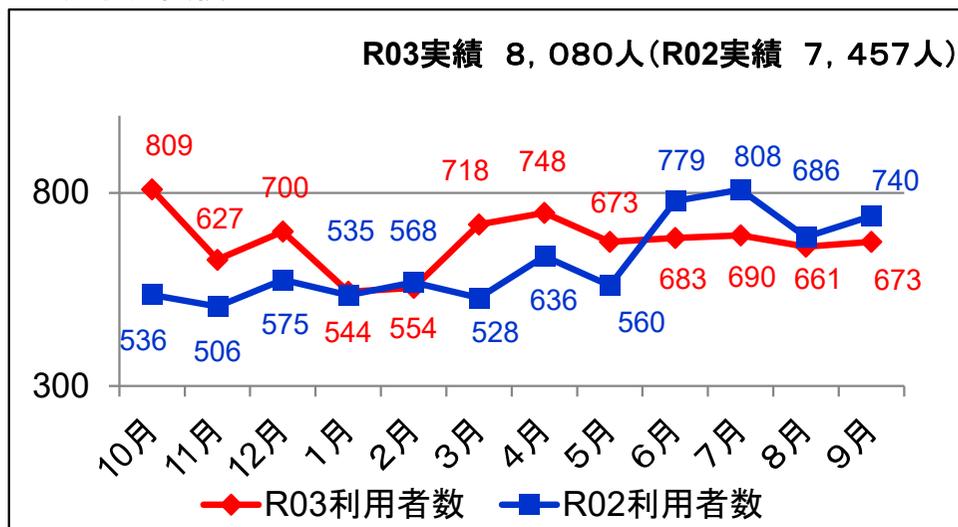
### 1) プロセス、創意工夫

- ・フリー乗降制を全区間で実施した。
- ・全バス停留所を記載した時刻表を作成し、町内全戸へ配布した。（令和3年4月、10月）
- ・運転免許証を返還した高齢者及びその配偶者を対象に町内路線バスの定額券（1乗車あたり100円）を交付し、高齢者の交通事故防止と路線バス利用者の増加を図った。
- ・ICカード乗車券を利用することによる定額運賃制度（特定区間1乗車あたり100円）を継続し、ICカードの普及による、路線バス利用者の利便性の向上と増加を図った。
- ・下り最終便終点手前停留所で乗降客がない場合、回送運行を行った。
- ・交通系ICカードと上ノ国町健康ポイント事業との連携による、ポイント付与事業を実施し、交通系ICカードの普及と路線バス利用者の増加を図った。

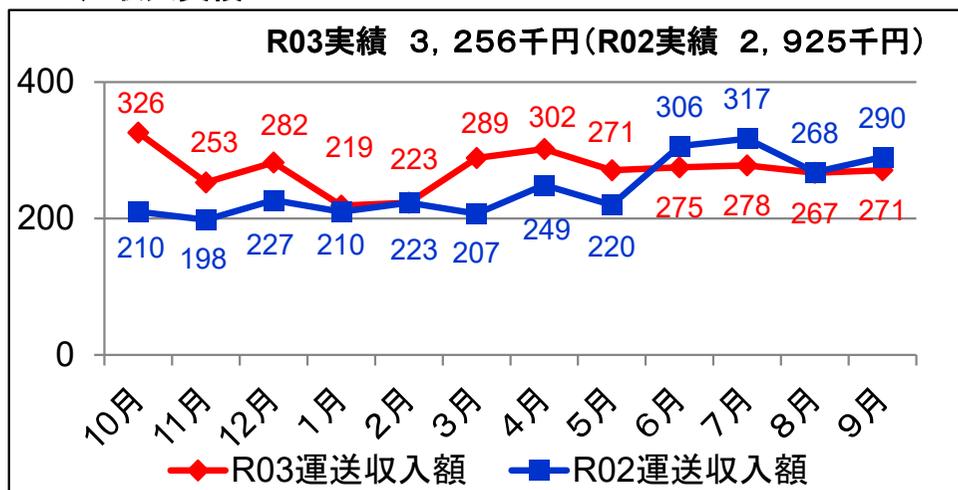
### 2) 運行系統



### 3) 利用実績



### 4) 収入実績



(参考資料)

生活路線バス「小砂子線」に係る経常損益算定表

年 度		令和3年度	令和2年度
運行回数(平均)	(回)	4.5	4.3
実運行日数	(日)	364	365
実運行回数	(回)	1,634.5	1,578.5
乗車走行キロ	(キロ)	118,931.2	114,649.8
乗車密度		0.6	0.5
輸送量	(人)	2.7	2.1
経常費用	(千円)	32,817	31,721
	キロ当たり経常費用 (円)	275.93	276.68
経常収益	(千円)	4,113	3,772
	運送収入 (千円)	3,256	2,925
	その他収入 (千円)	857	847
経常損益(赤字額)	(千円)	▲ 28,704	▲ 27,949
負担内訳	国庫補助金 (千円)	5,711	11,711
	町補助金 (千円)	22,993	16,238
	その他 (千円)	0	0

国庫補助金は確定前(令和3年12月14日現在)。

## 5) 事業実施の適切性

○事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。  
○利用者数などは目標に達しないものの、昨年と比較し、バス利用者は増加している。  
また、下り最終便空車時（終点手前停留所で乗降客がない場合）回送運行を引き続き行い、効率的な運行が図られたほか、フリー降車を継続して実施し、利用者の利便性向上が図られた。  
○免許返納高齢者の定額運賃制度・ICカード利用者の定額運賃制度を実施したことにより利用者の利便性が向上した。

## 6) 目標・効果達成状況

○乗車密度が、目標の1.15人に対して0.64人であった。（前年度0.59人）  
※算出根拠  $\frac{\text{運送収入}}{\text{実車走行キロ数} \times \text{平均賃率}}$   
 $\frac{3,255,965\text{円}}{(118,931.2\text{km} \times 42.64\text{円})}$

○目標の1,950人に対して1,776人であった。  
（前年度 1,597人）  
※算出根拠  $\frac{\text{年間利用者数}}{\text{住基人口}} \times 1,000\text{人}$   
 $\frac{8,080\text{人}}{4,549\text{人}} \times 1,000\text{人}$

○利用状況を分析すると、「上り第1便」の利用者数が減少しており、要因として、バス通学する生徒数の減少が考えられる。また、「上り第2便」は利用者が大きく増加しており、乗車場所では小砂子・石崎からが多く、降車場所は大留が最も多いことから、買い物等によるバス利用の増加と考えられる。

昨年と比較し、全体的なバス利用者数は増加していることから、自動車等の自ら移動手段を持たない住民に対し、日常生活に必要な不可欠な交通移動手段が確保された。

## 7) 事業の今後の改善点

○町広報誌や町ホームページへ運行ダイヤを掲載するなど広報活動に力を入れ、新たな利用者の拡大を図る。

○現在実施している免許返納高齢者の定額運賃制度、ICカード利用者への定額運賃制度を広報誌などを通じて周知し、路線バス利用者の更なる増加を図る。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

（令和4年度分と併せて評価）